

水管工

分水作業で講習会

県央産業技術専門校生へ技術指導

宇都宮市管工事業協同組合(和田均理事長)は、(2年生10人、1年生10人)に座学や実技を通して、分水作業に必要な知識や技術を伝授した。同組合の和田理事長は「今回の実技講習は、学校の授業カリキュラムに無いもの



和田理事長

座学では、青年部会の西浦徹副会長がスライドを使って宇都宮市の水道の歴史や、安心・安全な水道水をつくる仕組みなどを説明。その後、サドル付き分水栓の取り付け作業動画を視聴した。実技講習では会場を移動し、青年部会の会員がデモンストレーションを行った後、2人1組に分かれて分水栓の取付、穿孔、通水などの分水作業を体験した。講習会に参加した2年生の青木優人さん(20才)は「初めての作業なのでスムーズにできなかったが、丁寧に教えてもらったので仕上げることができた。将来は、人に頼られ、お客様に分かりやすく説明できる職人になりたい」と話していた。

だが、業界にあつては、いざ経験するものは、今の段階で経験するのは大変なこと。こうした経験を通じて、管工事業界へ興味を持ってもらい、就職へつながれば」と述べ、有意義な講習となるよう願った。

また、教育技術委員会の黒川平委員長も「水道本管は人間の体で言えば血管であり、水漏れなどの問題があれば機能不全に陥る。今後、仕事をすすめる上で皆さんは水道のお医者さんだと思って作業すると面白い。半日の講習だが頑張ってほしい」とあいさつした。



技術指導講習会の様子